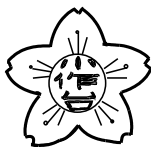


よく考える子  
思いやりのある子  
げんきな子



# 学校通信 小作台

第 6 号  
令和 6 年 9 月 3 日  
羽村市立小作台小学校

## ホップ・ステップの2学期に

校長 小山 夏樹

昨日、9月2日より2学期がスタートしました。先週末の天気予報から、臨時休業になる心配がありましたが、一転して快晴の空の下始業式を実施することができました。快晴の空の下と書いたものの、校庭は熱中症の危険があり、体育館は空調工事で使えないので、校内テレビ放送による実施となりました。始業式後、転入生3名の紹介も行いました。

始業式の話…夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。夏休み前に話をした「今年は…をやったよ。」ということができましたか。朝の挨拶等で校長先生にも伝えてもらえるとうれしいです。今日は夏休み中のこと、2学期のことについてお話をします。初めは夏休み中のことです。今年の夏休みは、パリオリンピックが開催されたので、テレビでオリンピックの競技中継を見た人が多いのではないのでしょうか。私の印象に残った競技・選手を3つ挙げると次のようになります。1つ目は、日本の金メダル第1号となった女子柔道の角田真実選手です。巴投げと関節技は素晴らしい切れ味でした。得意技の重要性を実感しました。2つ目は、スケートボードの堀米雄斗選手です。東京オリンピックで金メダルを獲得したあと、パリオリンピック出場がなかなか決まらず、最後の予選で出場を決めました。本番でもメダル圏外から最後の試技で得意技を決め、大逆転で金メダルを獲得しました。ここの一番での勝負強さに感心しました。3つ目は、男子体操の日本チームです。仲間が失敗しても、勝負を諦めずに大きな声で仲間を励ます萱和磨キャプテンの姿に勇気をもらいました。最後は大逆転で2大会ぶりに金メダルを獲得しました。仲間を信じ、最後まであきらめない粘り強さが光りました。もちろんメダル獲得に関わらず、全力でプレーし、負けても勝者を称える選手たち全員が素晴らしかったです。次に2学期のことを話します。2学期をスポーツで例えると、ホップ・ステップ・ジャンプの三段跳びのステップに当たると考えます。(三段跳びの跳び方を説明)「1学期は、入学・進級した学年相応のことができるように『ホップ』。2学期は、1学期に身に付けたことをさらにより良くできるように磨きをかける『ステップ』。3学期は、次の進学・進級を目指して目標を一段高めて『ジャンプ』。」ということでしょうか。2学期は1学期に学んだことの質を高めるよう努力し、皆で力を合わせて素晴らしい小作台小学校を作っていきましょう。余談になりますが、日本の金メダル1号は、1928年アムステルダムオリンピック・三段跳びの織田幹雄さんだそうです。更に、三段跳びでは、1932年ロサンゼルスオリンピックで南部忠平さん、1936年ベルリンオリンピックで田島直人さんと、3大会続けて金メダルを獲得しています。

昨日スタートした2学期の授業日数は、12月25日の終業式まで79日となります。この日数は、1学期より9日ほど多く、3学期と比べると29日多くなり、3つの学期の中で一番授業日数が多い学期となります。運動会や作品展等の大きな行事もあり、1学期で学んだことや夏休みに経験したことを基に、一人一人の児童が大きく成長する大切な学期となります。実り多いステップができる2学期とするために、子供たちの生活リズムを一日も早く家庭のリズムから学校のリズムに切り替えていきたいと思えます。「早寝・早起き・朝ごはん」保護者の皆様にもご協力をお願いします。

※パリパラリンピックが開催中です。オリンピックに引き続き日本選手団にエールを届けましょう。